

平成25年度 教育事業
つながる！ボランティア体験講座

ボランティア活動やイベント企画に必要な基礎的知識・技術を学ぶことができ、ボランティアについて深く考える機会ができました。また、普段経験することのない体験を通して、幅広い視野を身に付けることができました。

1 事業実施までの経緯

2000年以降「奉仕活動の義務化」が教育改革国民会議で提案され、それを受けて学校教育法、社会教育法の改正で「ボランティア活動など社会奉仕体験活動の推進」が教育機関の責務となり、その結果、青少年にボランティア精神を普及し、生涯を通じて様々な場面でボランティアとして活躍できる人材を育成する重要性が指摘されるようになってきた。そこで、本事業では、当機構の法人ボランティア制度に基づき、ボランティアの基礎的な知識だけでなく、ボランティア自身が事業を企画し、運営計画を立て、実施することによって、事業運営に必要な知識と技能を体験から学ぶことをねらいとし、主体的に行動できる人材育成につながるよう企画した。

また、地域のリーダーとして活躍できる人材を育成する上で、主に地域で活躍する高校生を中心に募集計画を立てて実施することとした。なお、事業後に法人ボランティアとして登録した者には年間を通じて当事業で企画したイベントを実施することで、企画立案から実践まで実体験できるように計画した。

2 ねらい

青少年教育におけるボランティア活動に必要な基礎的知識・技術等を習得するための研修を行い、生涯を通じて地域や様々な場面において主体的に行動できる態度を育成する。

3 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

4 後援 愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会・株式会社愛媛新聞社

5 期日 つながる！ボランティア体験講座
平成25年7月20日（土）～21日（日）【1泊2日】

青少年交流の家フェスティバル
平成25年10月26日（土） ※台風27号の影響等のため中止

6 場所 国立大洲青少年交流の家

7 参加人数 つながる！ボランティア体験講座 29名
青少年交流の家フェスティバルは台風27号の影響等のため中止

- 8 講師** つながる！ボランティア体験講座
 前田 眞 氏（NPO法人まちづくり支援えひめ 代表理事）
 大洲地区広域消防事務組合消防署員
 国立大洲青少年交流の家 企画指導専門職・事業推進係・法人ボランティア

9 日程・内容

つながる！ボランティア体験講座

(1) 日程

□ 7月20日（土）

10:00	10:30	11:00	12:30	13:30	17:00	18:30	20:30	21:00	22:00
受付	開講式 アイス ブレイク	ボランティア の 知識を学ぼう！	昼食	イベントを企画 しよう① (グループ探し)	つどい 夕食	安全管理 について	イベントを 企画しよう② (内容づくり)	入浴 自由交流	就寝

□ 7月21日（日）

6:30	9:00	12:00	13:00	15:00	15:30
起床 つどい 朝食	イベントを企画 しよう③ (発表)	昼食	まとめ	閉講式 解散	

(2) 活動内容

【概要】

国立大洲青少年交流の家では、高校生・大学生・専門学校生・社会人等の青年を対象にボランティア養成事業を行っている。今年度も「つながる！ボランティア体験講座」を独立行政法人国立青少年教育振興機構における法人ボランティア養成共通カリキュラムに基づく内容で実施した。

開講式の後、参加者同士の緊張をほぐし交流できるようにとアイスブレイクを行った。その後、ボランティアの知識を学ぶ講座を行い、お互いのボランティア観や活動における意義について理解を深めていった。また、午後からは、イベント企画に向けての講座を行い、企画の材料を探すために施設探検を行ったり、手法を学んだり、グループで実際に企画を考えていった。

2日目は、1日目に考えた企画案を発表するためのプレゼンテーションの手法についてグループで話し合い、発表をおこなった。発表後、投票によって実現したい企画を決定し、後日、青少年交流の家フェスティバルにおいて実施することとなった。

開講式・アイスブレイク

講師：企画指導専門職・事業推進係・法人ボランティア

交流の家の設立目的や取り組んでいる事業等を説明し、参加者に当交流の家について理解を深めてもらった。また、当交流の家職員によるアイスブレイクを行い、簡単なレクリエーションを通して参加者の緊張をほぐしていった。今回、グループ活動が中心となるためコミュニケーションを中心とした内容で行った。最初は緊張していた様子であったが、徐々に和やかな雰囲気でも過ごすことができるようになっていった。



ボランティアの知識を学ぼう！

講師：事業推進係

ボランティアをはじめるとあって、ボランティア活動の意義や歴史など、基礎的な知識を中心に学んだ。はじめに、ボランティアの4つの特性である先駆性、自発性、社会性、無償性を理解し、ボランティアのイメージをふりかえってもらった。また、活動をする上で大切にしたいことやボランティアを受け入れる施設や団体側の思い、ボランティアを行う個人・団体にとって注意することなど、実際にボランティア活動を行う上での重要な視点や意識の理解を深めてもらった。

イベントを企画しよう①（グループ探し）

講師：前田 眞 氏

当交流の家が毎年実施している青少年交流の家フェスティバルを題材に子どもと親を対象にしたイベント企画に向けたグループ活動を行った。まず、青少年交流の家フェスティバルの概要を理解し、実際に親子のイベントが少ないことや、体験的な活動が必要であること、活用されていない施設があることなどの環境を把握した。

その後、バックステージツアーと題し、実際の施設を見学し、活用できる素材などを調べていった。施設を一通り見学した後、実際に親子イベントを実施する想定をしながら、魅力的な企画案を作るためにグループで話し合った。企画案が思うように発案できなかったが、講師のアドバイスや指導の下、様々な企画案を出す手法を学び、各グループともに模造紙などを使用して活発な意見が交わされるようになった。



安全管理について

講師：大洲地区広域消防事務組合消防署員

夜からは消防署員と消防ボランティアの方に安全管理と題して普通救命救急講習(入門編)を実施していただいた。イベント中に事故が起こった場合や、野外で活動する際に怪我が発生した時は、二次災害などの周りの状況を確認するだけでなく、素早く処置をすることによって、怪我を最小限に抑えることを学んだ。また、実際に消防ボランティアとして同行いただいた方に、ボランティアとして大切にしたいことを聞く機会もあり、貴重な時間を過ごすことができた。参加者には今回の講義の時間をふりかえってもらい、ボランティアをされた(受けた)私たちにとって何ができるかを具体的に考えてもらった。その際に、今回の講座を実施した中で講師の方へ向けて素直な感謝を言葉として伝えることで消防ボランティアの方にも温かい気持ちを伝えることができた。



イベントを企画しよう②（内容づくり）

講師：前田 眞 氏

1日目最後のプログラムとして翌日に向けた企画のプレゼンテーションの準備を行った。グループで話し合った企画案をより具体的に、相手に伝わりやすいように工夫を凝らしながら企画作りを進めていった。

イベントを企画しよう③（発表）

講師：前田 眞 氏

グループに分かれて、グループ毎にフェスティバルの企画案を発表するための準備を行い、実際

に発表を行った。それぞれのグループが企画案の魅力を伝えるために、発表の導入から寸劇を披露したり、声の大きさを工夫したり、道具などを使用したりと、それぞれの班の持ち味を出し、伝えることができた。短い時間の中で案を出し合い、具体的な計画性のある内容に仕上げることは難しいようであったが、それぞれのグループで意見をまとめて発表することができていた。発表後、投票形式で実現したい企画案に投票してもらったが、どのグループの案も票数が多く、魅力ある企画案として作られていた。



まとめ

講師：前田 眞 氏

全員で投票して決定した企画案を実施するために、何が必要か考え、参加者全員で役割分担を行った。そして、当日に向けての具体的な準備を含めて、今後の動きについて考えていった。実際にリーダーと副リーダー役となった参加者が今後の集まりについて計画し、リーダーの下で青少年交流の家フェスティバルに向けて企画を実施していくことになった。また企画案実施当日に参加できないメンバーもいることが分かったがそれぞれができるときにできることを行っていくことで、今後の動きを意識して活動することができた。

最後のまとめとして、2日間の事業を通して参加者全員で小さな親切をしようとの思いでお互いにお互いを意識しながら小さな気遣いを心がけてもらうゲームを行っていたが、そのゲームの中でどのような点で気遣いをしていたかの発表を行った。発表では参加者が思いがけない行動をしていたり、気遣いが伝わっていなかったりしたが、日常的にちょっとした意識の持ち方でボランティア活動ができることを知り、またその活動の意義について改めて見つめ直す事ができていた。また、ボランティアに対する興味関心がこの2日間を通して深まっていったようであった。



(3) 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

*満足：60.0% *やや満足：40.0% *やや不満：0.0% *不満：0.0%

- 充実した内容でした。特にいろいろな年齢層の方々と話すことができよかったです。
- ボランティアについて考えたり、イベント作りの大変さを学びました。
- 施設を見学し、ボランティアについて考察し、企画作りを学ぶことは見識を広めることができたと思う。

(4) 成果・課題

当事業は、今年で7回目の開催である。今回の事業実施にあたり、昨年度の参加者や各学校の担当者より意見を伺い、実施時期等を選定して開催した。昨年度の改善点から学校の負担にならないように配慮するため、チラシやポスターの掲示等も、生徒1人1人に配布できる体制を取った。また、学校側がチラシを増刷するような手間や作業がないように、予め準備できる資料は当交流の家で用意して広報等を行った。その結果、近隣の多くの高校生の目に触れることができ、以前と比べて多くの高校生の参加につながった。

また、今回も昨年度と同様に企画体験としてイベント企画のための体験を行い、実際に自分たちで青少年交流の家フェスティバルの企画作りを行う内容で実施した。イベント企画から実施までの継続した流れを多くの者が体験できるようになっており、継続的な参加機会を設けることで、自発的な活

動を促すことにつながり、参加者相互のコミュニケーションやボランティア活動の意義を理解することができた。

今後の展望として、大学の授業単位カリキュラムでボランティア活動を学ぶ機会が増えてきているが、参加における動機が流動的な性格が強いため、学生自身がよりボランティアの理解を深めるために、ボランティアの要素に必要な参加者相互のコミュニケーション力を高めるような工夫や、自ら考え行動していくような体験的な要素を含めたプログラムも検討していく必要がある。

また、今後も大学と連携した形で、広く一般にボランティアの理解を深め、様々な場面で活躍するきっかけを提供することが重要であり、ボランティアリーダーとなって主体的に行動できる態度を身につけて活躍する者を輩出していけるような機会を提供していきたい。



青少年交流の家フェスティバル

(1) 日 程

□ 10月26日(土) ※台風27号の影響等のため中止

9:00	10:00	16:00	17:00
集合 準備	ボランティア企画実施	終了 片付け	解散

(2) 概要

体験講座の参加者により10月下旬に実施される青少年交流の家フェスティバルに向けて、ボランティア企画を計画・準備をしてきた。しかし、青少年交流の家フェスティバルについては、台風27号の影響等のため中止となった。

(3) 準備

7月に実施した「つながる！ボランティア体験講座」の事業に参加し、法人ボランティアとして登録した者が中心となって企画提案されたイベントを準備してきた。

ボランティア企画の実施にあたり、企画運営をしていく上で事前の準備や打ち合わせ等の時間を設けてきた。役割分担された中で継続的に参加して、集まりに参加できない者についても議事録の作成によりフォローアップをしており、各自が責任意識をもって活動する様子も見られ、主体的に行動をしていた。

(4) 成果・課題

今年度「つながる！ボランティア体験講座」に参加し、法人ボランティアとして登録した大学生と以前から活躍している法人ボランティアが中心となってボランティア企画の準備を精力的に行ってきた。企画の予算や準備物、スケジュールなどの細かい分野においてもとりまとめを行っており、各自が主体的に行動できていた。また半面、様々な異年齢が集まる集団としてボランティア企画の準備をしてきたところで、コミュニケーションの難しさに気づく場面が多く、ボランティアとしてお互いが平等な関係であることや、生活環境も異なる参加者のコミュニケーションを高めることが課題として挙げられていた。

今回は台風27号の影響等もありボランティア企画は中止となったが、今後の課題として、よりボランティア活動の理解を深める時間を多く設定することや体験講座としての参加対象やねらいに対応した運営を検討していく必要がある。